

ウェイトリストにのったら・・・

以下は、あくまでも一般的なアドバイスであり、ウェイトリストの利用の仕方については各学校により異なります。最も大切なことは学校のアドバイスや指示を確認し従うことです。

1. 出願した学校からウェイトリストの通知がきました。これはどういう意味でしょうか？

ウェイトリストに載った出願者は、入学審査官からすると合格に近いながらもあと少し合格には達しなかった方の集まりです。つまり、スペースがあるなら合格させたいと思っている出願者たちでもあります。毎年、どれだけの数の出願者が不合格となっているかを考えれば、ウェイトリストに載ったということは、あなたの資質に対してのポジティブなサインだと考えるべきです。

2. もし、25 人の合格者が入学を辞退したら、25 人がウェイトリストから合格となるのでしょうか？もし、合格者が 1 人入学を辞退したら、自分に合格のチャンスが回ってくるということでしょうか？

ウェイトリストは、大きく分けると合格させた人たちが入学審査官たちの予測した通りに入学を希望しなかった場合の補足としての役割と、最終的に決定する 1 学年の Diversity(多様性)を調整するための役割と 2 つの役割があります。

➤ 入学審査官たちの予測したとおりに入学を希望しなかった場合の補足としての役割

例えば、A 大学の一学年のクラスが 100 人で、入学審査官は合格した人のうちの約 65%が入学するだろうと予測しました。そして、合格を出した出願者のうちの約 35%が別の大学へ入学するだろうという予測を元に、100 人のクラスを作るために 154 人の出願者に合格を出します。もし、35%以上の人が入学を辞退した場合、100 人の定員との間に差が生まれます。この様な場合に、ウェイトリストを利用して人数を繰り上げて 100 人のクラスを作ります。

➤ 最終的に決定する 1 学年の Diversity(多様性)を調整するための役割

例えば、B 大学では 1 学年のクラスが 100 人で、入学審査官は合格した人のうちの約 65%が入学するだろうと予測し、100 人の合格を出しました。この様な場合に、65 人の入学を決定した人たちの Diversity(多様性)を考えながら、ウェイトリストを利用して 35 人を繰り上げて 100 人のクラスを作ります。

ウェイトリストの利用方法は学校によって違いますし、先に出ている合格者の行動に大きく影響を受けることになります。学校側は、合格者が最終的にどういった決断をするのかが分からないため、「ウェイトリストから繰り上がるかどうかは分からない」というのは、もっともな事なのです。

3. ウェイトリストから繰り上がる確率を高くするためにできることはありますか？

どのようにプログラムに貢献できるのかということと、そのプログラムに対してのコミットメントが重要なキーポイントとなります。

➤ 感謝と入学の意思を伝える

まず、出願者として検討していただいていることへの感謝と、引き続き、繰り上がったなら入学の意思があることを伝えましょう。入学審査官にとっては、繰り上げて無事に入学してもらえるかどうかは、プログラムの入学率や他の出願者への対応にも影響し、非常に重要なポイントとなります。

- 学校のアドバイス/指示を必ず確認する
下記のようなアクションを起こす前に、必ず学校からの指示内容を確認しましょう。学校側から何もしないで待つように指示がある場合には、待つことが正答となります。
- 出願後のプロフィールの変化について伝える
そのプログラムが書類の追送や状況のアップデートをすることを認めているならば、出願後、自分自身のプロフィールにどのような変化があったかを伝えましょう。出願後に受験したテストスコアの上昇、部署異動による業務・責任範囲の拡大、プロジェクトの成功、論文の発表、賞などの受賞などプラスになる要素があれば、それをまとめて伝えましょう。一通の手紙として出す場合や追加エッセイとして提出する方法があります。
- 追加の推薦状を提出する
すでに提出した推薦状とは違った角度からコメントを書いて下さる推薦者がいれば提出しましょう。例えば、出願時には内密にしていた頼めなかった直属の上司や、所属しているボランティア活動の責任者など、すでに提出した職場や取引先からの推薦者以外で違ったエピソードを通してあなたの良さや情熱を加えてアピールしてもらえる人が存在するのであれば、追加の推薦状を依頼し提出しましょう。
- 出願時には訴えられなかったことを伝える
出願時には訴えなかったことで、他に補いたいことがあれば伝えましょう。その学校の出願書類には含める機会がなかったが、別の学校の出願書類に訴えた自分の資質や、出願後のキャンパス訪問などを通して自分の目で見たこと、キャンパスで会った在校生、教授や日本で会った卒業生からの話で、具体的に自分に重要だと思ったこと、貢献できることなどを伝えましょう。

ウェイトリストに載った出願者の中には、他校からの合格通知が届き、引き続いての審査を辞退する連絡をしてくる場合があります。そういった場合には、ウェイトリストの中での競争率は低くなるわけです。

4. ウェイトリストとなったプログラムに興味があり、繰り上がったなら入学の意思があるというのは、どの程度学校側に伝えればよいでしょう？キャンパス訪問はすべきですか？

- 入学の意思の伝え方
“ウェイトリストとなったプログラムに入学の意思がある”と伝えることはあくまでも社会人・大人としての良識範囲内で行うべきことです。50人、100人のウェイトリスト出願者が皆同じように不安に思いながらもアクションを取る訳ですから、その中でも極度に心配性の人、悲観的な人、相手に対する配慮に欠ける人が起こす行動がどれだけ入学審査官に迷惑となるかは容易に想像ができます。頻繁にアドミッションオフィスに電話をして自分を売り込んだり、状況を確認したりするような行為は相手に迷惑をかけるだけでなく、合格の可能性を低くする結果につながります。
最初に手紙などでフォローした場合には、4-6週間おきぐらいに継続した入学の意思があることを e-mailなどで知らせる程度に留めましょう。その際の文章は、簡潔に、そして新たに連絡をする必要性があることが望ましいのは言うまでもありません。MBA プログラムに出願している場合には、各ラウンドの合否結果が決まる時期を見計らってアップデートをするというのもひとつの方法です。
- キャンパス訪問
一般的には、キャンパス訪問をすること自体が直接合格に繋がるという可能性は低いですが、間接的にはその効果は考えられます。例えば、キャンパス訪問をすることにより自分の描いていたイメージを肯定

し、よりその学校に入学したいと感じる、または反対に興味が薄れるといったことが考えられます。また、入学審査官に自分の状況をアップデートする際に、書き加える材料が増えます。もし、可能であるならば、キャンパス訪問の際に入学審査官と話す機会を持ちましょう。もちろん、入学審査官は審査に忙しい時期でもありますので、依頼を断られたとしても無理強いをしては逆効果です。基本的には、学校側がするな、といっている行為はしないことです。

5. 第一志望校におけるウェイトリストからの繰り上がり結果を待つべきでしょうか、それとも第2志望からの合格を受けるべきでしょうか？いつ頃からこういった決断をしなければならないのでしょうか？繰り上がる確率はどれくらいでしょうか？

もちろん、これは学校によって異なります。よりレベルの高いプログラムでは、ウェイトリストもより競争が激しくなると考えられます。基本的には、合格する保証のないウェイトリストのプログラムからの結果をいつまでも待つよりも、できる限りのことをしたら、先のことを考え始めることです。春を過ぎる時期となると、学校側も入学する意思があるかどうかの最終決断を要求する時期となります。その時期までにウェイトリストにのっているプログラムからの連絡がなく、もし、どこかの大学院に入学したいと思っているのであれば、合格の保証のない学校からの結果を待って合格しているプログラムを辞退するのは得策ではありません。ウェイトリストの学校も視野に入れながらも、現実的な準備を始め、繰り上がったらそのときに対応しましょう。

6. 追送するエッセイや手紙の文章をアドバイスしてもらいたいのですが、その様なカウンセリングサービスはアゴス・ジャパンでは提供していますか？

今後どのようなアクションを取っていくことが効果的かのアドバイスについては MBA/大学院出願カウンセリング内で日本人カウンセラーが、追送するエッセイや手紙の文章のアドバイスに関してはネイティブのカウンセラーが1対1で指導します。

指導の際には、出願時の状況(テストスコアなどの数字や他の出願校の合否結果)、すでに学校側に提出した出願書類一式を確認しながら作成していくことが効果的です。

有料サービスとなっておりますので、詳細はお問い合わせください。